



規模拡大に向けた省力化の取組（スマート農機の活用等）

株式会社 荒井農産（岡山市南区東畦548）

TEL：086-282-3030 URL：https://www.instagram.com/arainousan0310/



経営概要

経営面積

水稲60ha、二条大麦51haの二毛作

生産品種：主食用米 20ha：ひとめぼれ、ヒノヒカリ、朝日、はいごころ
酒造好適米 40ha：山田錦30ha、雄町10ha

主な業務

米麦の生産、販売

労働力

5名

取組の経緯

- ・1994年 現代表者（荒井義隆氏）の父（現会長：荒井隆文氏）が米生産を開始。
- ・2020年 株式会社荒井農産を設立。
- ・2024年 荒井義隆氏が代表に就任。
岡山県農林漁業近代化表彰（農産部門）を受賞。



取組内容

スマート農機を活用した省力化

- ・ドローンを活用して肥料散布や防除に取り組んでいる。最大作業面積は10ha/日で、導入前に比べ作業効率は3倍程度に向上。
- ・ドローンのセンシング機能に加え、田植え機に搭載された可変施肥機能を活用し、土壌の状態に合わせた施肥量の調節を行い、省力化と肥料コスト削減を実現。

積極的な農地借受

- ・近隣の耕作不能になった農地を積極的に引き受け、規模を拡大（借受面積は年平均3ha程度ずつ増加）
- ・2027年度には80haに拡大を目指し、大規模な乾燥施設等を整備予定。

事業承継

- ・義隆氏は22歳で就農し、30歳で代表に就任。早期に業務を引継ぎ、経営経験を積むことでスムーズな事業承継を実現。
- ・機械整備の得意な和隆氏（弟）と協力し、大規模農業経営を確立。
- ・近隣の30代～40代の後継者とも積極的に交流し、栽培技術などの情報交換を行っている。



今後の展望

- ・「安心安全で美味しいお米作り」をモットーに安くて高品質なお米を生産する。
- ・スマート農機による作業効率化と生産コスト低減を図りつつ、規模拡大を進め、地域農業の維持発展を実現する。

取材年月日：令和7年3月12日



現代表の荒井義隆氏



多数のスマート農機を活用



大麦の二毛作による収益性向上